

松阪牛

かわら版
17号

優秀賞1席 けいこ号 深瀬さん快挙！



松阪牛の女王を決める「第63回松阪肉牛共進会」が11月25日、松阪市の農業公園ベルファームで開かれました。最高の優秀賞1席には、明和町斎宮の深瀬晃さんが手塩にかけた「けいこ号」が選ばれ、今年の最高額2200万円で津市の朝日屋さんが落札しました。

深瀬さんは昨年初めて共進会に出品し、2年目にして初の栄冠に輝きました。審査には、妻の好子さんと孫で県立相可高校3年の翔さんが「けいこ号」の手綱を引いて出場。緊張の面持ちで審査を見守り、1席を知らせるアナウンスが流れると「信じられない」と、満面の笑みで快挙を喜んでいました。

この日、ベルファームでは「松阪牛まつり」が開催され、焼肉コーナーや地域商品の販売など、多くの来場者でにぎわいました。



匠をたずねて 5

このコーナーでは「松阪牛のふるさと」といわれる飯南町で、古くから松阪牛の肥育に力を注いでいる人たちを連載で紹介しています。

「黙って育て静かに育てること。それが立派な松阪牛を育てるコツ」一。そう静かに語る栃木さんは、松阪牛とともに人生を歩んでいる牛飼い名人のひとり。「大きな声で叱ったり、叩いたりしたらあかん。牛は気の小さい動物なんだから、静かに優しく接してやらないと。牛は賢い。何でもよく分っているんだよ」と、牛の頭をそっと撫でた。

栃木さんが牛に携わるようになったのは、17歳のとき。同じ深野に住む家畜商、田上亀三郎さんを手伝うことになった。それまで、家で牛を飼ってはいたが、特段世話をした記憶もなかった。ただ、牛は大好きで、毎日一生懸命働いた。大きな仕事も任されるようになり、次第に牛を見る目も養われていったという。



栃木さんが暮らす飯南町深野は標高が高い。国道を折れ、つづら折りの坂をしばらくただらと上った先に家も牛舎もある。

澄んだ空気、おいしい山からの水。牛を育てるには最適な場所とされており、古くから「松阪牛のふるさと」と呼ばれている。栃木さんが牛に携わるようになった時代は、牛は肉用ではなく、農耕用として飼われており、家族同様に暮らしていたという。

つづく

栃木 浩郎さん(80)

松阪市飯南町深野 (その1)



信頼の証です 松阪牛個体識別管理システム

シールに印字された10ケタの個体識別番号で松阪牛の血統や農家の情報、移動履歴などを知ることができます。

皆さまに安全で安心な松阪牛をお届けする証を目印にお買い求めください。



発行 松阪市役所農林水産課畜産係 三重県松阪市殿町 TEL0598(53)4119

平成24年12月

松阪牛協議会ホームページ <http://www.matsusakaushi.jp> もご覧ください